

現代日本語における動詞変化構文「スルようにする」の意味・用法

—変化と様態の関係をめぐって—

前田 直子

1. はじめに——動詞変化構文とは

あるものがべつのものに変化することを表す表現のもっとも基本的な形式は、「なる」を用いた表現である⁽¹⁾。

- 1) 息子が医者になった。
- 2) 部屋がきれいになった。
- 3) 部屋が暖かくなった。
- 4) インターネットで飛行機のチケットが買えるようになった。

日本語では、上のように、変化の結果の位置にあらわれる語の品詞によって、その形態が異なる。すなわち、名詞・ナ形容詞の場合は、名詞あるいはナ形容詞語幹が「に」を伴い、イ形容詞の場合はいわゆる連用形「～く」の形をとる。そして、動詞の場合は、基本形に「ように」を伴う。これらを変化構文と呼び、4) のように、変化の結果が「動詞＋ように」によってあらわされる場合を動詞変化構文と呼ぶ。

動詞変化構文において注目されるのは「ように」を用いるという点である。「ように」とは、推定あるいは様態を表すいわゆる助動詞「ようだ」の連用形、または、名詞「様」に格助詞ないし「だ」の連用形「に」が付されたものと考えられるが、なぜそのような形式が動詞の場合に必

要になるのだろうか。

また変化構文には、「なる」による自動詞的表現とともに、「する」による他動詞的な表現が存在する。

- 5) 息子を医者にした。
- 6) 部屋をきれいにした。
- 7) 部屋を暖かくした。
- 8) インターネットで飛行機のチケットを買えるようにした。

「する」では、対象の状態変化が表され、「なる」では主体の状態変化が表されると指摘されている。いわば両者は他動詞・自動詞の対応と並行的な関係にあると考えられる。

- 9) この店のサンドイッチは最近少し小さくなった。
- 10) 材料費が上がったので、店の主人はサンドイッチを少し小さくした。 (益岡・田窪1992: 93)

上の文では「サンドイッチ」の状態変化がそれぞれ表されている。このように、変化構文には、自動詞的なナル変化構文と、他動詞的なスル変化構文がある。

一方で、変化構文には、必ずしも変化を表すとは言えないものがあることも指摘されている。

- 11) これからも、毎日練習するようにしてくださいね。

こうした変化構文は、「状態変化」というより、「事態の実現への努力や事態の維持の努力を表す（同書：93）」と考えられているが、動詞変化構文の場合、次のように「～ように」を用いない表現とも非常に近く、両者にはどのような違いがあるのだろうか。

- 12) これからも、毎日練習してくださいね。

「変化」と「事態の実現への努力や事態の維持の努力」とはどのような関連があるのだろうか。また、「なる」と「する」は自他の対応なのか、「なる」は変化を表すとしても、「する」は変化を表していると言えるのか²⁾、という問題も残る。

本稿ではこれらの点に注目し、現代日本語のスル変化構文を取り上げ

て、考察してみたい。

2. 動詞変化構文の問題点

動詞変化構文のうち、スル変化構文には、格助詞選択の問題がある。

13) また、同じ頃、母方の祖父が、運の悪かった娘を憐れんで、
なけなしの金をはたいて小さな家を建て、そこに、自分と娘と、
孫である僕が、三人水入らずで住めるようにしてくれた。

（贈る言葉）

14) ドアを開かないようにしておくと、回転窓からよじのぼって
くる。

（どくとるマンボウ航海記）

このように、変化主体を「を」でマークすることも、「が」でマークすることもできる⁽³⁾。これは、形容詞や名詞による変化構文には見られない特徴である。

15) サンドイッチ {を／*が} 小さくした。

16) ドア {を／が} 自動的に閉まるようにした。

構造的に見れば、主格および対格を与えているのは、下線の動詞であると考えられる。

17) a ドアを [閉まるように] した。

b [ドアが閉まる] ようにした。

変化主体を表すのにガ格が使われることは、動詞変化構文においては、17bのように「ように」の前の部分が独立した節として存在できるからであろう。動詞変化構文で「ように」が使われる結果がここに一つ現れているが、だが、なぜ、形容詞では連用形である結果状態が、動詞の場合は「ように」によって表されるのかという疑問は残る。

動詞変化構文の形式的な問題点として、もう一つ、否定的状態変化を表す表現に2種類があるということが挙げられる。すなわち、「ように」を用いる動詞型「～しないようにする」と、形容詞と同じ形をとる形容

詞型「～しなくする」の二つが存在する。ナルの場合も同様に、動詞型「～しないようになる」と形容詞型「～しなくなる」が並存する。さらに、スル変化構文の場合は、「～しないようにする」という動詞型が好まれ、ナル変化構文の場合は形容詞型「～しなくなる」が好まれるという違いもある。(cf.前田2002)

なお、先に見た格助詞選択の問題であるが、否定的状態変化を表す場合、この問題が起こるのは、「～ないようにする」となる場合である。

18) ドア {を／*が} 閉まらなくした。

19) ドア {を／が} 閉まらないようにした。

このように、動詞変化構文には、形式的に形容詞・名詞の変化構文とは異なる注意すべき構文的特徴がある。

3. スル変化構文「～ようにする」の意味・用法

3.1 「変化」と「努力」

「～ようにする」には「変化」ではなく事態実現や維持への「努力」を表すものがあることが指摘されている。これは、動詞の場合には限らない。(益岡・田窪1993:93)

20) a もう少し静かにしなさい。

b 早く起きるようにしなさい。

c 花子はそのときおとなしくしていたらしい。

動詞変化構文の場合、「ように」を用いない動詞文でも同様の意味が表せるので、それと対比させると、確かに「ようにする」には「努力」という意味が感じられる。

21) a 早く起きるようにしなさい。

b 早く起きなさい。

では、「変化」と「努力」の違いは、何であろうか。

形式的な点で気づくのは、主体の異同という問題である。対象の「変化」を表すスル変化構文では、「変化の引き起こし手」と「変化主体」

が別である。

22) 店の主人がサンドイッチを小さくした。

23) 花子はおとなしくしていた。

例文22では、変化主体は「サンドイッチ」であるが、変化の引き起こしては「店の主人」である。だが、例文23では、変化主体も、変化の引き起こし手も花子である。

この主体の異同が「変化」か「努力」かと関わっている。まず、このことを確認しよう。

次のような主体が異なる文では、ナル変化構文、すなわち「主体の状態変化」と対照的な、「対象の状態変化」が表されている。

24) 荒れた邸を清らかに修理し、草も刈らせ、遣水も流れるようにした。 (新源氏物語)

25) 京橋の本社は七階建てのビルとなった。一階の小売部のそばには、アメリカ風のカフェテリア、すなわちセルフサービスの簡易食堂が作られ、ハイカラ好みの人のあいだで話題となった。また、コカ葉とともに南米から直輸入したコーヒーも飲めるようにした。 (人民は弱し)

例文24および25は、「遣水も流れるようになった」「コーヒーも飲めるようになった」とナル変化構文で表せるが、その場合、対象の変化のみが表され、それを引き起こした変化の起こし手の存在は不明になる。

一方、次のように主体が同一の文を見てみよう。

26) 丑松は故意と話頭を変えて了った。下宿の出来事は烈しく胸の中を騒がせる。それを聞かれたり、話したりすることは、何となく心に恐しい。何か穢多に関したことになる、毎時もそれを避けるようにするのがこの男の癖である。 (破戒)

27) それにしても毎回、ちょうど十分だけ遅れて来るようにするのも、たいへんな神経を使うことだろうにと同情したこともあった。 (若き数学者のアメリカ)

28) 私は Koeber さんの哲学入門を開いて、初のペエジから字を

逐って訳して聞せた。しかも勉めて仏經の語を用いて訳するようにした。
(二人の友)

上の文は以前の状態とは別の状態への「変化」を表しておらず、そのため、「避けるようになる」「来るようになる」「訳するようになった」とは置きかえることができない。その代わり、「ようにする」を除いて、「それを避けるのがこの男の癖である」「遅れて来るのも」「仏教の語を用いて訳した。」としても、意味はあまり変わらない。「ようにする」を用いると、すでに指摘されているように「実現への努力をする」というニュアンスが出て来る。また、「努力する」のであるから、その実現は明らかではなく、仮定的な事態、すなわち成立の可能性がある事態となり、また、一回の動作ではなく、習慣的な意味、すなわち一定の期間に複数回、成立する事態であるという解釈も表される。

では、同一主体の場合、常に「努力」意味になるのだろうか。次の文は、同一主体であるが、文脈から「変化」の意味も読みとることができ、「～ようになった」に置き換えることが可能である。

29) この年、入校を機にぎんは自分の名を「吟子」と書くようにした。すなわち「萩野吟子」である。
(花埋み)

この文は「書くようになった」とナル変化構文で表すことも可能である。だが、ナル変化構文が自然発生的な主体の変化を表すのに対し、「書くようにした」では、主体が意志的に自分の行為をコントロールして変化させていることが明確になる。次の例も同様である。

30) 加藤は出勤時間をおそくした。いつも三十分前にいくのを十分前に出勤するようにした。田口みやを警戒する気持になったのである。
(孤高の人)

31) しかしその後ある夏、その女とKであった時、自分はその注意がややもすると力のなくなることを感じた。自分はこれでは困ると思った。それでその女をさけるようにした。だが逢いたい気はややもするとした。
(友情)

例文30・31はそれ以前とは異なる状態への「変化」を表しているが、

「努力」の意味もあり、「出勤した」「さけた」と言い換えることも可能である。また、「ようにした」を用いることによって、一回の動作ではない、一定期間内くり返される動きを表している。

これらの文では、文脈から「Xようにする」のXがそれまでとは違う状態であることが明らかである。そのため、「変化」と見ることもでき、「変化」と「努力」の両方の意味を併せ持っていると言える。両者が連続的であることを示す例であると考えられる。

逆に、主体が異なるのに、「変化」の意味を表さない場合もある。

- 32) しかし後悔はしていなかった。社長がスムーズに仕事をできるようにするのは、秘書たる者のつとめである。

（女社長に乾杯）

この場合は主体変化ではないので、「なる」による言い換えはできない。この文はヨウニ節の主体は「社長」であるが、「する」の主体は「秘書」であり、「秘書」の「努力」を表しているようにも見える。他にも次のような例があるが、こうした例を考えるために、「変化」「努力」とはまた少し異なる用法を確認しておこう。

- 33) 大声でいい、城内にまぎれ入っている敵方の間者の耳に入るようにした。自然、こうした庄九郎の言動は敵方につつぬけになり、（以下略）
（国盗り物語）

3.2 「調整」を表す「～ようにする」

「～ようにする」には、「変化」や「努力」とはやや異なるものがある。

- 34) 不意に金子の声がした。内藤は立ち上がり、マウスピースを洗面所で洗い、口に含んだ。一、二度、唇を大きく動かし、歯としっくり合うようにする。それから、ジムの練習生に、スパーリング用のグローブをはめてもらう。（一瞬の夏）
- 35) 僕は人夫の云うのに従って、その輪を右肩から左の腋下にまわして掛け、細引の結び目が背中のまんなかに行くようにした。

これで広い範囲でもって、がくんがくんを受けとめるので少し
具合がよくなった。 (黒い雨)

34はボクシングのマウスピースをはめる状況を表す。異主体であるがナル変化構文には言い換えられず、「変化」の意味が弱いといえる。上の「ようにする」が表すのは、対象の状態を一定期間「変化」させることではなく、対象の一時的な状態（例えば位置など）を「調整」して瞬間的に新しい状態を作り出すという意味である。例文35も同様である。

先ほど見た、異主体でありながら「変化」の意味がないものは、この「調整」を表していると見ることができる。

36) 社長がスムーズに働けるようにするのは、秘書の仕事である。
(例文32の改)

37) 大声で言って、敵方の耳に入るようにした。
(例文33の改)

3.3 「～ようにする」が表す意味

「Xようにする」が表す意味は、事態Xが実現することを目指して、行為「する」を行うということである。時間的前後関係を言えば「する」が先に成立し、その後でXが成立する。したがって、Xには動詞のル形のみが現れ、タ形は来ない。「変化」「調整」「努力」の三つの場合すべてに、この点は共通する。

事態Xをめざして行動することを表すという意味では、「Xようにする」は「変化構文」と言うより、「結果状態構文」と言う方が適切であろう。結果状態Xは、「変化」の結果でもあり、「努力」の目標でもある。

主体の面から見ると、Xと「する」の主体が同じである場合、原則として「Xようにする」は対象の状態変化を表すことができず、主体の行為（すなわちXと「する」の二つの行為）が全面に出る。この場合には「努力」の意味が表されるのであろう。主体が異なる場合には「変化」か「調整」の意味が表されるが、両者の違いは、文脈的に、Xと別の状

態との対照があるかどうかという点である。前の状態とは明らかに異なるという場合には「変化」の意味が表され、そうでない場合には「調整」の意味が表されるが、両者は連続的であると見ることができる。

「Xようにする」は、事態Xが実現することを目指して、行為「する」を行うということであり、したがって、「Xようにする」自体には変化の意味はない。ただ、Xが実現することを目指す以上、Xがまだ成立していない場合が多いことは予想される⁽⁴⁾。それで、「変化」という意味が生じやすいのであろう。

では、なぜ結果状態が「ように」によって表されるのであろうか。それを見る前に、「Xようにする」のもう一つ別の用法を確認しておきたい。

4. 「様態」を表す「～ようにする」

「Xようにする」が表す「変化」「努力」「調整」すべてに共通する意味として、Xという状態が生じることを目指して、「する」という行為を行うということが見られた。事態間の前後関係から言えば、「する」が実現した後で、「X」が実現するということになる。だが、「～ようにする」には、その関係が見られない場合がある。

38) 令嬢は長い首をもたげて、周囲を見まわすようににした。

(金閣寺)

39) 先生は信夫の顔をのぞきこむようににした。 (塩狩峠)

これらの例では、ヨウニ節の動作と「する」という動作が同時に起こっており、一つの動作を表している。そのため、「周囲を見まわした」「のぞきこんだ」としても良いが、上の「～ようにする」には努力の意味はない。他にも「にらむようにした」「眺めるようにした」「目を見張るようにした」のような場合がある。この場合ヨウニ節には「見る」と関わる動詞であり、「～ようにする」は「見る」様態を表している。

こうした例は、「見る」様態だけではない。

40) 灰色の波の泡が、青山さんの両足をすっぽりととり囲んだ。
青山さんは少しズボンの裾を持ち上げるようににした。

（太郎物語 高校編）

41) 意次は、むすめの手をとり、押しいただくようににした。こころから、そうおもっているのだ。

（剣客商売）

42) 信夫がこたえて、ぺこりとおじぎをすると、ふじ子は急には
にかんで母の肩にかくれるようににした。

（塩狩峠）

これらは「動作」としての様態を表しており、他にも、「抱き寄せるようにした、肩を抱くようにした、支えるようにした、背負うようにした、ゆすぶるようにした」などがある。

見る様態や動作としての様態を表す「～ようにする」はどんな特徴があるのだろうか。

「変化」や「努力」の「Xようにする」は、「X」という状態を実現するためにある動作を行うことを表しているので、「X」が実現するかどうかは仮定的である。仮定的とは、実現するかどうか分からない、あるいは、実現が一回の出来事ではないということである。

しかし、上に見る様態の場合は、一回性の動作であり、しかもそれは実現している。では、「Xようにする」は何を表しているのだろうか。

こうした様態の「Xようにする」が表しているのは、ある行動がXと（話者に）見える行動をすることである。

39) 先生は信夫の顔をのぞきこむようににした。

（塩狩峠）

この例では、先生がとった行動は、信夫の顔を「のぞきこむ」ことであつたかどうかはわからない。だが、話者には、「のぞきこむ」と見えたということをこの文は表している。動作の様態の場合も同じであり、ある行動を話者が名付けた行為として認識したことを表現している。

41) 意次は、むすめの手をとり、押しいただくようににした。こころから、そうおもっているのだ。

（剣客商売）

この文は、意次がとった行動（例えば、娘の手をとって、少し持ち上げたこと）を話者が「押しいただく」と名づけているのだと見るのがで

きる。このことは、次のような文を見るとよりはっきりする。

43) 「どうだい、かえていい事があるかなあ？ いったい日本の様子はどうなんだ」と僧はいつて、赤くなつたいやな目つきでじっとこちらを覗きこんで、さぐるようにしました。

（ビルマの豎琴）

44) と三原は、まるい目を宙に向けて考えるようにした。

（点と線）

動作の主体が本当に「さぐる」「考える」という動作を行っていたのかは不明である。ただ話者がそのように「僧」や「三原」の動作を名づけているだけである。

「様態」とは、話者によるある動作の名づけであり、現実とは異なる可能性がある。その意味で、様態は仮定的である。仮定的である「様態」は、明らかに事実と異なっても良い。

45) 僕はあずけられた腕時計に眼をくっつけるようにしたが、針の角度は分らなかった。

（草の花）

46) しかしあまり逢いにゆくと杉子に手紙をやった男のように思われても困ると思った。偶然逢ったようにしたいと思った。

（友情）

例文45は、眼を時計にくっつけることは不可能であるが、それに近い動作をしたという意味で、反事実的な比喻になっている。46はいつそう明らかであるが、反事実的な事態を表しており、しかも「結果状態」の場合にはみられなかったヨウニ節の夕形が現れている。

このように、様態を表す「～ようにする」のXは仮定的であり、仮説的な（すなわち、実現するかもしれない）場合と、反事実的な場合があることがわかったが、さらに、もう一つ、事実的といえる場合がある。

47) 「今回は向こうの言うようにした方がいいです。私はそう思います」

（一瞬の夏）

48) 加藤は金川の態度を不審に思った。金川にいわれたようにすること自体がなにか犯罪を犯すようでいやだった。（孤高の人）

上の例がこれまで見た「Xようにする」と異なるのは、Xが「する」の実現より時間的に前に成立していて、「する」時点ではXが実現していると考えられる点である。このような「～ように」は「～とおりに」と置き換えられ、やはり、夕形が現れることもある。次の例はXに形容詞が来ているが、同様のものである。

49) 「結局、いろいろあったけど、おふくろも、もう、弱っているしね。したいようにした方がいい、と僕は思うんだ」

（太郎物語 大学編）

5. まとめ——ヨウニ節との関わり

「Xようにする」が表す意は大きく二つに分けられる。

Xが「する」より後に発生する場合、すなわち、「する」ことによってXが実現する可能性があることを表す場合は、主体の異同および文脈によって、「変化」「調整」「努力」という意味を表す。

Xが「する」と同時である場合、あるいは「する」前に行われている場合には、「様態」の意味を表す。様態には、Xが仮説的である様態「眺めるようにした」「肩を抱くようにした」や、反事実的な様態「偶然会ったようにしたい」、事実的な様態「言われたようにした」がある。

この分類は、「～ようにする」だけでなく、「～ように」節の分類と全く一致している。この様態の三種類は、「～ように」節にも見られるものである。

50) タクシーはゆっくり玄関の前を通り過ぎた。那美子のはのぞき込むように見た。
（女の小箱（上））

51) 石塚はよろめくようにそこにすわった。
（女の小箱（下））

52) 倫は、白刃にひやりとふれたように前身が栗だった。
（女坂）

53) Gホテルは、女中が言ったように、堀江の旅館からすぐであ

った。

（女の小箱（上））

54) 父が書くように息子もまねて書いた。

それぞれ、見る様態（例文50）、動作としての様態（51）、反事実的な様態（52）、事実的な様態（53および54）を表している。このように、副詞的な修飾節であるヨウニ節と様態を描写する「Xようにする」は機能的に全く同じである。おそらく、「ようにして」という連用形の用法を介して、両者はつながると考えられる。

55) a 周囲を見回すようにした。

b 周囲を見回すようにして、やってきた。

c 周囲を見回すように、やってきた。

56) a おしいただくようにした。

b おしいただくようにして、娘の手をとった。

c おしいただくように、娘の手をとった。

一方、先に見た「変化」「調整」「努力」を表す「Xようにする」はどうか。これらに対応する副詞的修飾節は何か。

それは、次のような目的ないし結果を表す副詞的修飾節である。

57) 始発電車に間に合うように、朝五時に起きた。

58) 後ろの席からも見えるように、黒板の字を大きく書いた。

この結果（目的）を表す副詞節においても、「ように」にはル形しか現れず、主節動作の後で生じる事態を「ように」が表している。

以上をまとめると、次のようになる。「～ようにする」は副詞節「～ように」と並行的な用法を持つ。

	ル形のみ	タ形可
ようにする	結果状態 (変化・調整・努力)	様態
付加的 ⁽⁵⁾ ように節	結果（目的）	比況

6. おわりに——なぜ「ように」か？

「XようにY」の表す意味は、「X」と「Y」の類似性であると考えられる。「よう」が「様子・さま」に関連することも、また「ようだ」が「推定」あるいは「比況」と呼ばれることも、そのことを支持するだろう。大まかにとらえると、「XようにY」とは、「Yの様態をXであると話者が認識している」ということになるだろう。

「様態」と「変化」は直接的にはつながらないかもしれないが、そこに「結果」という概念が介在することによって、三者はつながることができる。

59) 料理を手早く作る。

60) 料理をおいしく作る。

「手早く」は「作る」様態であるが、「おいしく」は「作る」動作の結果として存在する料理の状態を表している。日本語の連用修飾語が、このような様態と結果の両方を表すことは、形容詞の副詞形だけでなく、副詞にも見られることである。

61) 客船がのろのろと進んでいる。…様態副詞

62) 子供がまるまると太っている。…結果副詞

そして、この様態と結果の関係が「ように」という副詞節にも見られることは不自然なことではない。

63) ささやくように、小声で言った。…「言う」様態

64) みんなに聞こえるように、大声で言った。…「言う」結果
「結果」とは、ある行為によって、時間的にその後には生じる状態である以上、それは、その行為が行われる前には存在しなかったものであり、そこに「変化」という解釈が生じる余地が出てくる。

65) 体を折り曲げて、のぞき込むようににした。…様態

66) 大きく書き直して、みんなに見えるようににした。…変化
このように「様態」「結果」「変化」はつながっている。本質的に様態を

表す「ように」が「結果」を意味する構文において用いられる根拠は、この点にあると考えられる。

注

- (1) なお、現代日本語には、変化を表す表現に次のようなものもある。
 - ・仕事をしているうちに次第に疲れてきた。
 - ・名前を吟と書くことにした。また、他動詞も「対象変化」を表すことができる。
 - ・音程を合わせた。これらの表現および「ようにする」「ようになる」との関係については、安達（1997）を参照。
- (2) 『日本語文型辞典』では「ようにする」を「行為や状況を成立させることを目指して努力する／心がける／配慮する、といった意味を表す。」（グループ・ジャマシイ 1998:623）とされており、「変化」という要素は認められていない。
- (3) この点は、次のような認識動詞構文に見られる格助詞の問題と類似している。
 - ・彼 が／を 犯人だと思う。
- (4) ただし、Xはまだ成立していないだけでなく、すでに成立していることもある。その場合、「Xようにする」は、Xを継続させることを目指す。この場合「変化」ではなく、「調整」の意味になる。
 - ・これからも誰もが図書館の本を利用できるようにします。
 - ・新館長もそれまで同様、誰もが図書館の本を利用できるようにした。
- (5) ヨウニ節には、次のように必須的な場合がある。
 - ・母は息子に朝早く起きるように言った。（発話内容節）
 - ・彼は今日は来ないように思う。（思考内容節）これらの必須的な場合と付加的な場合の関係については、前田（1994）を参照。

参考文献

- 安達太郎（1997）「『なる』による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化学部紀要』第四号
- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（著）・松岡弘（監修）（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- ・白川博之（監修）（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 池上素子（2000）「変化を表す『なる』に関する一考察—学術論文コーパスの分析から—」『北海道大学留学生センター紀要』第4号
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 新潮社（1995）『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』新潮社
- 田中章夫（1971）「ようだ」松村明編『日本文法大辞典』明治書院
- 田山のり子（2000）「複合辞『ようになる』の意味と用法」『東京外国語大学留学生センター紀要』第26号

現代日本語における動詞変化構文「スルようにする」の意味・用法（前田）

筑波ランゲージグループ（1992）*SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE : VOLUME THREE: NOTES* 凡人社

仁田義雄（1997）『日本語文法研究序説－日本語の記述文法を目指して－』くろしお出版

前田直子（1993）「『目的』を表す従属節「～ように」の意味・用法－様態用法から結果目的用法へ－」『日本語教育』79

_____（1994）「比況」を表す従属節「～ように」の意味・用法」『東京大学留学生センター紀要』第4号

_____（1995）「スルタメ（ニ）、スルヨウ（ニ）、シニ、スルノニ－目的を表す用法－」『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』宮島達夫・仁田義雄（編）くろしお出版

_____（2002）「否定的状態への変化を表す動詞変化構文について－ないようにする・なくする・ないようにする・なくなる－」『東京大学留学生センター紀要』第12号

益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版

森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型』アルク

Makino Seiichi and Tsutsui Michiko(1986)*A DICTIONARY OF BASIC JAPANESE GRAMMAR*（日本語基本文法辞典）The Japan Times

Matsumoto Yo(1996) "Subjective-Change expressions in Japanese and their cognitive and linguistic bases", Fauconnier, G and E.Sweetser(eds.)*Space, Words, and Grammar*, The University of Chicago Press

NAGARA,Susumu.et al（1990）*JAPANESE FOR EVERYONE* 学研

（日本語日本文学科 助教授）